広報つなぎ 6月 No.269
昭和63年
発行／津奈木町 編集／企画課 印刷／水俣旭印刷所

人口と世帯（5月1日現在）人口6,086（＋19）・男2,915（＋9）・女3,171（＋10）・世帯1,726（＋8）　（　）内は前月との比較

えべっさんの笑顔と
平国地区漁港の完成

約30億の総工費で完成した平国地区漁港

海を見守る"えびす像"と記念碑

合串漁港の平国地区漁港建設事業が着工したのは昭和四十八年、約十五年の歳月を経て完成の運びとなり、五月二十三日しゅん工式が現地にて行われました。

県南の中核漁業基地として、第五次漁港整備計画に基づき行なわれたこの平国地区漁港建設事業は年間予算が少なく、長い年月がかかったもので、総工費は約三十億円。工事内容は三万四千平方メートルの海面埋立てをはじめとする防波堤四七〇メートル、物揚げ場三八〇メートル等。

合串漁港は合串地区漁港と今回完成した平国地区漁港のふたつに分かれ、養殖を主とする「つくる漁業」の生産拠点となる合串地区漁港に対し、平国地区漁港は漁獲を主とする「とる漁業」の拠点となっています。

合串地区漁港は本年度より着工され、完成するのは五年後の昭和六十八年の予定で、防波堤、物揚げ場等を中心に総工費約二十億円の予定です。

漁船による海上パレード

この日のしゅん工式には、県、町、漁協組合員ら約四百人が出席、記念碑と釣り竿を手に不知火海を見守る"えびす像"の除幕式をかわきりに、大漁旗を掲げた漁船による海上パレード、もち投げ、最後は住民参加によるカラオケや踊りが披露され、大きな歓声が天草島にとどく様に響き渡っていました。

合串漁港内には漁業協同組合を中心に、水産物加工場、各養殖場など、町漁業の中心的施設が整備されており又、漁港関係のみでも昭和六十八年までに約五十億円の事業費が県を中心に投資されています。施設面が便利になった反面、漁獲や養殖等は、やはりまだ自然に支配されており、今だ安定した収獲が難かしい現況にあります。今後は町、漁協・漁業者が一体となり可能性の研究が必要な時代となってきました。漁業者の皆さんどうし今まで以上に、ソフト面での話しあいが、これからの津奈木の漁業をささえいく柱になることと思います。又、養殖試験場等の研究も、これからの漁業の活性化に必要な施設なのかもしれません――。

環境週間（六月五日より十一日まで）「まずは自宅のまわりから美しく」

生きかたり
たずねあるき（その一）

トラフグの養殖

「生きがい　たずねある記」は、津奈木在住の方々の、様々な生きがいについてスクープする特集です。

第一回目は合串漁港でトラフグのふかと養殖を手がけていらっしゃる山口憲治さんの奥さん昌子さん（三六）をスクープしました。

訪ねてみると、ちょうどトラフグの卵十五万個のふかに成功し、十万匹の稚魚が海に浮かぶ養殖棚にうつし終わり、昌子さんがエサをあたえている所でした。

「フグに関しては、始めてでしまだ色々なノウハウがわからないですから――。エサは一日四回に分けてやらないと、空腹の状態になると共食いするんです」と山口さん。

夜明けとともに第一回目のエサをやらないといけないとのことで朝は新聞少年よりもハードなスケジュール！。夜ふかしのすきる人には不向きな職業（カナ）。

昌子さんの今のところの生きがいは、このトラフグで、「一年半後、この少さなフグ達が、一キロを超す姿となり、ぶじ出荷できたらほんとうに安心なんですが」とのこと。ほんとうにがんばってもらいたいものです。

又、十二月にでも訪ねてみたいと思います――。

――それと――

養殖のトラフグには毒がないそうですヨ――と存知でしたか――。

養殖棚に乗りトラフグにえさをやる昌子さん

みんなの鯉ですとらないで
商工会青年部　津奈木川に鯉（コイ）を放流

端午の節句を前に、去る五月二日、津奈木保育園の園児達の手によって錦鯉四五〇匹が、重盤岩眼鏡橋下の津奈木川に放流されました。

これは、近年津奈木川の魚が激減したことから、昔のような魚影を取りもどそうと、津奈木町商工会青年部（部長・野崎義一）が子供の日にちなんで行なったものです。

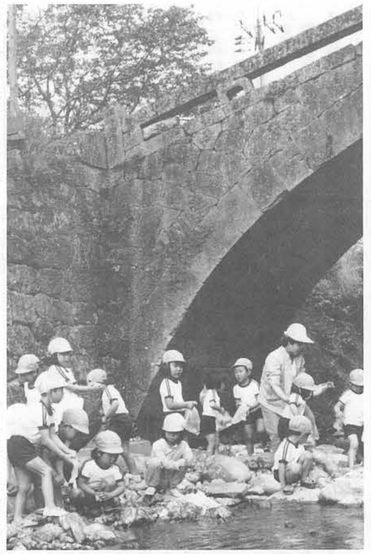
もともとこの端午の節句と鯉がなぜ関係あるのかというと、古く中国の竜門の故事に「竜門は、黄河の上流にあり、これを登ることのできたコイは竜に化するという。」いわゆる"コイの滝登り"のことで立身出世の象徴とされており、江戸時代それが日本に伝わり、五月節句に戸外に立てる幟に武者絵の他にコイの滝登りが描かれるようになりました。これが江戸時代の中ごろから外に飛び出し、大きな鯉幟になったといわれています。

この日は、長州町商工会の協力を得て、長さ十センチほどの錦鯉四百五十匹を放流。はじめての経験に子供達も大はしゃぎ、放流後も大きなまなざしで、いつまでも川の中を望きこんでいました。

各地で河川の改良が進み災害等はかなり少くなったものの半面魚貝類の生存数もそれにともない減少しており、川の魚礁も検討されています。幸い本町にはまだ魚の住むことのできる深みも各ケ所にあり、魚達のねぐらとしては、まあまあのようです。

商工会青年部では来年も鯉を放流することにしており数年後は、川ぞいを散歩しながら色とりどりの錦鯉を見ることが出来ることを期待しています。

放流した錦鯉は、みんなの財産なんです。みなさんでかわいがっていただくとともに、心ない人が網等で収穫していたら、「この鯉は子供達が放流したんだから、とらないで下さい」と注意してあげて下さい。


めがね橋の下でコイを放流する園児たち

美化に一役

環境週間（六月五日～十一日）を前に、日奈久から出水間の天理教徒の皆さん（約一〇〇名）に干拓地内の除草作業を行っていただきたいへん美しくなりました。

紙面をかりてお礼申し上げます。

若い人からお年よりまで幅広く参加して…

昭和63年２月診療分医療費速報

	一般	県下の順位	退職者	県下の順位	老人保健	県下の順位
受診者数	970人		160人		367人	
受診率	135‰	4	148‰	10	155‰	1
一人当り医療費	29,315円	5	26,886円	70	63,020円	50

津奈木町国民健康保険

青年団☆

宇田美佐子さん　（A型）
S39.4.9.生れ　24歳

平国小の印象は
新任で入ってまだ何もわかりませんが、とにかく子供達が元気が良すぎて手とすってます……。四月にくらべたらだいぶおちついてはきましたが――。

休日は何を
自宅（竜北町）の方へ帰ってのんびりするか、母校の鹿大に遊びに行って「地域子供会」のサークルの後輩達に合ったりします。

他になってみたい職は
動物が好きで、獣医になりたいって高校時代は思ってました。ただ理系が苦手でしたのであきらめました。

結婚はいつごろ
まだまだ……でも三〇歳になるまでには……。

薬師寺管主　法相宗管長
高田好胤講演会

■日時　昭和63年６月20日午後６：30開場
■会場　津奈木町改善センター
■演題　「親の姿・子の心」
■主催　水俣青年会議所

入場料 500えん

お知らせ

衛生係より
日本脳炎予防接種

日本脳炎予防接種
次の日程で予防接種を行いますのでぜひ受診下さい。

		津奈木校区	赤崎校区	平国校区
期日	1回目	63年6月1日	63年6月14日	63年5月30日
	2回目	〃 8日	〃 21日	〃6月6日
場所		改善センター	赤崎小学校	平国小学校
受付時間		13：30 ～		
料金		400円		
対象者		満3歳以上		

福祉係より
戦没者ご遺族の皆さんへ

第四回戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の請求期限が、来る昭和六十三年六月十三日で時効失権となります。

次の支給条件で、まだ申請をされていない遺族の方は期限内に手続を終了して下さい。

支給条件
特別弔慰金を受けることができるのは、満洲事変（昭和六年九月一八日）以後の戦没者のうち、昭和六〇年四月一日現在において、公務扶助料、遺族年金等を受ける方がいない場合です

なお、詳しくは町民課福祉係に問い合わせるか、昭和六十三年四月二〇日町内全戸配布の第四回、特別弔慰金請求に関する、特別広報紙をご覧ください。

心配ごと相談！

秘密は厳守されます

津奈木町社会福祉協議会・心配ごと相談所と津奈木町民生（児童）委員協議会では、生計・家族・人権・財産・事故・児童・母子・老人福祉・苦情その他のあらゆる悩みごと、心配ごとをもつ人なら誰でも、どんな問題でも気軽に相談に応じています。

「手続は簡単」まず電話を！

○相談者の自主性を尊重し、主体的に問題の解決をはかるように側面から援助します。

○一切の相談について、秘密を厳守し、相談者の希望によって匿名相談に応じます。

○相談はすべて無料です。

○役場の相談室で都合の悪い方は相談員の自宅を相談場所にしています。

○心配ごと相談所では相談を受ける相談員と民生委員を紹介します

問い合わせ先は次のとおりです

津奈木町社会福祉協議会、心配ごと相談所……☎七八―三二一一

心配ごと常勤相談員

田上一智・内野☎七八―二二八一

福田信順・染竹☎七八―二二六三

伊藤益夫・新川☎七八―二二七〇

職場に高齢者の雇入れを

六五歳以上の高齢者を当相談所などの紹介で常用労働者として雇入れられた事業主には、熊本県高齢者能力活用奨励金が支給されます。

高齢の方で、生活の安定や健康のため働きたいご希望の方は、来所して申し込んでください。

事業主の方で高齢者向きの仕事があり、雇入れたいときは、来所して申し込むか、電話でご相談下さい。

申し込や相談は一切無料です。

☆相談所の相談は毎週、月・水・金曜日の午前九時～午後四時です。

熊本県芦北町芦北町大字芦北二六七〇（福祉事務所内）

高齢者無料職業紹介所芦北相談所

電話八二―五三一〇

募集

県民文化祭・八代のポスター

一　趣旨
熊本県民文化祭は、熊本県芸術祭のメインイベントとして、本年から新たに開催されるもので、県民の皆さんのいろいろな文化活動を発表する場を提供するアマチュア文化の祭典です。

第一回の本年は、八代市で開催することになり（一〇月下旬開催予定）現在、八代色豊かな楽しい祭にしたいと計画を進めています。

つきましては、この催しをより親しみのもてるものとするためのポスター（プログラム表紙を兼ねる。）のデザインを募集します。

二　主催
第一回熊本県民文化祭八代市実行委員会

三　締切
昭和六三年六月二〇日

四　応募要領
①応募資格
一切制限ありません。
②課題
ポスター（プログラムの表紙を兼ねるもの）のデザイン
③送付の方法
郵送又は持参とし、作品の裏面に次により必要事項を記入して下さい。

（記入事項）	
氏名	
住所・電話	
年齢・職業	

小・中・高等学校の児童、生徒の場合は、職業欄に、学校名、学年を記入して下さい。

④作品の規格
イ、B三版（三六、四×五一、五㎝）の画用紙又はケント紙を使用して下さい。
ロ、色彩は自由です。
ハ、作品は創作にかきます
入賞作品の著作権は、主催者に帰属し、印刷物等に使用します。
応募作品は返還しません。

五　送付先
八代市松江城町一番二五号
八代市市長公室企画課　電話〇九六五―三三―四一一一

六　審査方法
審査会を設け選考します。

七　発表
入賞作品の発表は七月になります。

八　賞
特選　一点
賞状と副賞（賞金五万円）
一・対象地
㋑・水俣市袋　南志水国有林
六林班い小班　ヒノキ（一〇〇％）
林齢三一年生契約期間一九年間
㋺・芦北町国見　国見国有林
五三林班れ小班　スギ（八五％）
ヒノキ（一五％）林齢三〇年生契約期間二〇年間
二・条件
㋑・一口当り水俣市南志水の分は五〇万円、芦北町国見の分は二五万円、芦北町国見の分は五三万円は、それぞれ持分率が異なる）を出資していただき、契約対象となる森林の立木を国と共有し、持分を取得します。
㋺・契約に定めた時期に立木を販売して、その収益の分配を受けます。
三・募集期間
自・昭和六三年五月二五日
至・昭和六三年七月十五日
四・お申込み、お問い合わせ先
水俣営林署　電話・〇九六六―六三―二二〇七
〒八六七　水俣市宰町七―一

あなたも自衛官に

一、募集区分　二等陸海空士
二、応募資格　日本国籍を有する一八～三五歳未満の者及び、来春高校卒業予定者。
三、身分　国家公務員（特別職）
四、月額　一二四〇〇円賞与年三回（四・九ヶ月分）
昇給年一回
特別退職金　陸上二年：四二四〇〇〇円　海空三年：六六二〇〇〇円

※詳しいことは、自衛隊水俣募集事務所（水俣商工会議所二階）へおたづね下さい。
☎〇九六六―六三―五八六三

緑のオーナー
あなたと育てる故郷の緑

林野庁では、今年度も国有林の健全な育成を図るため緑のオーナー制度を全国各地で進めてきています。

水俣営林署におきましては、管内二カ所に約三〇年前に植林されたスギとヒノキの優良林分を対象として本年度第一回目の公募を行います。

御希望の方には、いつでも現地までご案内の上、くわしく御説明いたします。

雨期に入る前に
災害に備えて

梅雨入りを間近にひかえ、次のような準備をしておきましょう。

一、危険度の調査
自宅周囲の山、川、海岸などについて危険度を事前に調べておきましょう。

二、家の外周りの備えを完全に
溝や水路は清掃して水の流れをよくしておく。又崖や石垣などヒビ割れができていないか事前に点検し悪い箇所があったら修理をしておきましょう。

三、気象情報に注意
ラジオ、テレビ、有線放送などの気象情報や、防災上の注意事項をよく聞くとともに、雨の降り方に注意し、雷を伴った雨が降りだしたら一応、局地的豪雨と考え、厳重な警戒をする。

四、避難の準備
懐中電灯・救急薬品等を非常袋に入れて準備しておくこと。

避難にあたっては、その時になってあわてないように次の点を調べ、家族全員に徹底させておきましょう。

○避難場所や道順
○となり近所との協力体制はできているか。

五、危険がせまったら、まず避難
危険がせまったら何より早めに避難することが大切です。

避難場所は地区の公民館や、学校を指定してありますが、局部的な崖くずれ等の場合は、近所や親戚の家等、普段に決めておき、そこに避難しましょう。

六、その他
災害が発生したら、消防団か役場に連絡して下さい。

ご芳志お礼

地区	世帯主	
町中	元村　壯	故　人
桜戸	伊藤　豊	英子
平国下	山口正二	四郎作
倉谷	林　賢二	フミ
田浦町	宮尾数彦	アサエ
		タキ

乙意志に添い有効に利用させていただきますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

（敬称略）

原稿募集中
編集部では広報紙掲載文の募集を行っています。詳しくは役場企画課（七八―三一一一）まで！